

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ごとうがうしゃ おおくらりゆうきょうげんやまもとじむしょ 合同会社 大蔵流狂言山本事務所	団体ウェブサイトURL https://www.kyogenvamamoto.com/
代表者職・氏名	代表社員 石井 倬巳	
制作団体所在地	〒 166-0012 東京都杉並区和田1-55-9	最寄り駅(バス停) 中野富士見町駅
電話番号	050-3555-2465	
ふりがな 公演団体名	おおくらりゆうきょうげん やまもとかい 大蔵流狂言 山本会	団体ウェブサイトURL
代表者職・氏名	山本 東次郎	
公演団体所在地	〒 製作団体に同じ	最寄り駅(バス停)
制作団体 設立年月	平成18年 6月	
制作団体組織	役職員 業務執行社員(代表社員)石井倬巳 業務執行社員 山本東次郎	団体構成員及び加入条件等 狂言師 8名 事務局 1名 大蔵流狂言山本会に所属
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担 当者を置く	本事業担当者名 向井 麻里子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名 石井 倬巳

<p>制作団体沿革</p>	<p>【合同会社 大蔵流狂言山本事務所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1911年(明治44年)1月 山本舞台(杉並能楽堂の前身)の完成披露狂言会を機に二世山本東次郎(1846-1935)によって任意団体「山本会」創始。現在まで毎年2回の自主公演を主催。 ・1946年(昭和21年)5月 三世山本東次郎(1898-1964)により全国の児童学生を対象とする巡演を開始。狂言を通して若者たちに日本の古典文化の真髄を伝えていくことを悲願とし、その活動が認められ、狂言辞典に「三世則重(東次郎)は、狂言の青少年層への普及を意図して全国の学校巡演に先鞭をつけ、また積極的に推進し、これは四世東次郎則寿にも受け継がれて、東次郎家の特色となっている」と掲載される。 ・2006年(平成18年)6月 任意団体「山本会」の活動を継続・発展させるために、合同会社大蔵流狂言山本事務所として法人設立。現在は四世東次郎(人間国宝)を中心に、狂言の普及、後継者の育成に努める。 				
<p>学校等における公演実績</p>	<p>1946年(昭和21年)5月より学校公演実績あり。年間60～70公演実施。</p> <p>(直近)</p> <p>平成30年度 「柿山伏」「附子」全国68公演他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。 令和元年度 「柿山伏」「附子」全国62公演他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。 令和2年度 「柿山伏」「附子」全国31公演他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。 令和3年度 「柿山伏」「附子」全国42公演他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。</p> <p>弊会所属の狂言師は、東京都立芸術高等学校、埼玉県立芸術総合高等学校、神奈川県立神奈川総合高等学校舞台芸術科の講師を勤めている。また、教科書に狂言が掲載されているものの指導に困っている教員のために、狂言の歴史や狂言を子供に教える意図や目的を講義する講座を開き、教員の育成にも注力している。</p>				
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成11年 佐賀県立盲学校 ・平成13年 宮崎県立赤江養護学校(現・赤江まつばら支援学校) ・平成20年 鳥取県立白兔養護学校・鳥取工業高校合同鑑賞教室 ・平成27年 神奈川県立三ツ境養護学校 ・平成28年 長崎県立島原特別養護学校 ・平成30年 広島県立尾道特別支援学校 ・令和元年 長崎県立虹の原特別支援学校、長崎県立ろう学校 ・令和3年 茨城県立協和特別支援学校、東京都立田園調布特別支援学校 ・令和4年 学校法人愛育学園、長崎県立長崎特別支援学校 <p>演目「柿山伏」「附子」「呼声」「蝸牛」など、先生と相談し、児童生徒の状況を見極め、最適と思われる演目を上演します。</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>			
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://vimeo.com/467014178</p>			
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td>yamamotokai</td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:	yamamotokai				

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 大蔵流狂言 山本会 】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	教科書に載っている狂言「柿山伏」「附子」		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>・狂言「柿山伏」「附子」</p> <p>【プログラム構成】</p> <p>1.狂言「柿山伏」について解説 2.狂言「柿山伏」上演 3.狂言「附子」について解説 4.狂言「附子」上演 (休憩) 5.お話「狂言の心と日本の文化」 6.児童生徒との共演 7.小舞一番 8.質疑応答</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	<p>■狂言「柿山伏」:修行を終えて遠路故郷に帰る山伏は、空腹のあまり途中にある柿の木に登って実を食べます。それを見つけ腹を立てた柿の木の持主。山伏にカラスや猿のマネをさせ、最後はトビだと言って山伏を柿の木から飛ばさせます。腰を痛めた山伏も怒って逆襲に出ますが・・・</p> <p>■狂言「附子」:貴重品の砂糖に近付かせぬため「附子」という毒だと偽って出かけた主人。留守番の太郎冠者と次郎冠者はそれを怪しみ、決死の覚悟で「附子」に近付いて砂糖であることを見破ります。すっかり食べ尽してしまっ二人は、帰宅した主人にとんでもない言い訳をします。</p>		
演目選択理由	<p>「柿山伏」は、平成17年度より光村図書出版国語教科書小学6年生用に当家当主山本東次郎の解説と当家狂言台本が掲載されています。また、令和5年度まで継続して掲載されることが決定しています。</p> <p>「附子」は一休さんのどんち話にもある、狂言の中で最もポピュラーな演目です。</p>		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>本公演当日、狂言鑑賞とお話終了後に演者指導の下、ワークショップを行います。初めに児童生徒は発声練習を兼ねて、狂言の笑いや泣き方を体験します。大きい声が出るようになったら、事前に行ったワークショップで覚えた狂言小謡のおさらいをします。その後、児童生徒だけで狂言小謡を謡い、その謡に合わせて演者が舞います。狂言小謡は簡単な謡なので、事前のワークショップに参加できなかった児童生徒も当日のワークショップで覚える事ができ、共演することができます。</p>		
出演者	<ul style="list-style-type: none"> ・山本 東次郎(重要無形文化財各個認定(人間国宝)) ・山本 則俊(重要無形文化財(総合)指定保持者) ・山本 泰太郎(重要無形文化財(総合)指定保持者) ・山本 則孝(重要無形文化財(総合)指定保持者) ・山本 則重(重要無形文化財(総合)指定保持者) ・山本 則秀(重要無形文化財(総合)指定保持者) ・山本 凜太郎((公社)能楽協会会員) ・若松 隆((公社)能楽協会会員) <p>※ 体調等の都合により、演者変更がある場合があります。</p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 6 名 スタッフ: 1 名 <hr/> 合計: 7 名	運搬	積載量: t 車長: m 台数: 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	12時30分	12時30～13時10分	13時30～15時10分	10分	15時30～16時10分	16時10分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	0日	5日	0日	5日	5日	
	11月	12月	1月	計	30日	
	5日	5日	5日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	1,000名
		鑑賞人数目安	1,000名



(図1) 体育館ステージ上を使用

舞台に必要な広さ 幅8m×奥行4m

※上記広さが無い場合でも対応可能な場合あり。



(図2) 狂言「柿山伏」上演の様子

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。



(図3) 狂言「附子」上演の様子

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名前後
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>標準100分(休憩含む)</p> <p>①狂言についてのお話<10分> 狂言の歴史などについてお話します。</p> <p>②狂言クイズ<30分> 講師が狂言特有の発声や動きをするので、児童生徒は班に分かれて考え、答えを出し合い、まとめ、代表者が発表するグループワークを行います。</p> <p><休憩10分></p> <p>③基本所作<20分> 狂言の基本所作である「かまえ(姿勢)」「立居」「歩く・走る」を体験します。</p> <p>④発声<15分> 狂言の笑い方や泣き方、動物の鳴き声などを体験します。</p> <p>⑤謡を謡う<15分> 本公演当日に演者と共演するために謡う、狂言「蝸牛」の謡を練習します。</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>狂言は650年以上前にできた「台詞」と「仕草」の対話劇です。現代のように照明も音響もなく、舞台道具も最低限のものしかなかった時代に、台詞と仕草のみで観客に背景を見せながら物語を展開していく狂言は、演者の「型」と呼ばれる動きと発声(言葉)の正確さ、そして何より観客の想像力が必要になります。その想像力を養うために狂言クイズを行い、現代の演劇と違う狂言の見方を学びます。また、班に分かれ、皆で意見を出し合い、まとめ、発表するというグループディスカッションを行うので、児童生徒は狂言を通して様々な異なる価値観に耳を傾け、相手の考えを認め、尊重する姿勢を学びます。「型」と呼ばれる規則的な狂言所作を学び、普段とは違う規制された動きを体験することで礼節を身に付けます。修行を積んだプロの狂言師から体の動きや発声方法を学ぶことで、児童生徒の表現力が磨かれます。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>			